

CLOSE UP 同窓生の歴史

# ♪ 名曲『城ヶ島の雨』(白秋作詞)を作曲した やなだ だし 築田貞(中8期卒)の音楽生涯

「どんぐりコロコロ」「とんび」なども作曲し、大正から昭和にかけて「不世出」ともいわれた作曲家。曲を広めたのは同窓の後輩・世界的テノール歌手の奥田良三(中27期卒)だった。



40歳ころの肖像画

築田貞(やなだだし)／札幌中学8期卒)は、1885年(明治18年)、札幌駅ちかくの北5条通りにあった北海道開拓使の宿舎で生まれた。このころの札幌は、開拓の草創期。市中には「お雇い外国人」や宣教師たちが多く、彼らのもちこんだ洋風音楽がいたるところから流れていた。



神奈川県三崎の「城ヶ島の雨」碑  
左下に築田貞の楽譜碑がある。



築田(左) 宅を訪れた奥田良三。  
昭和12年ころ

創成小学校から札幌中学校に進んだ築田少年は、豊平館の音楽会に足をはこび、創成川にかかるサカスの楽隊が演奏する「美しき天然」やジンタに聞き入った。のちに「不世出」ともいわれる築田の音楽の才能は、当時の札幌の雰囲気によって育まれていった。

### 築田貞の歌碑・胸像

『隅田川』音楽碑／墨田区堤通り2丁目  
木母寺

『城ヶ島の雨』譜面碑／神奈川県三浦三崎

『城ヶ島の雨』音楽碑／東京都小平霊園

胸像と音楽碑／札幌創成小学校

親の意向にそって北大や早大に入学したが、音楽への想いが断ちがたく、東京音楽学校(現在の東京芸大)をめざして予備校に3年間かよった。このとき同じ予備校仲間であつたのが、のちに『方チューシヤの唄』などの作曲で有名になる中山晋平だった。

明治42年、築田は東京音楽学校本科音楽科に23歳で入学。中山晋平も同時に作曲科に合格した。謹厳実直、勉強熱心な築田はすぐにクラスのリリーダーになるが、自己顕示をもつとも苦手とする性格のため音楽家を目指すことには躊躇があつた。

『城ヶ島の雨』は、大正はじめに新しい文芸・芸術運動をおこした島村抱月が、本拠地とした有楽座で「舟歌」を発表をするために、作詞者に北原白秋を、作曲者に築田貞を指名したことに始まる。

2人とも28歳。築田を推薦したのは、親友の中山晋平だった。白秋の詩が遅れ、徹夜で作曲した築田が自ら歌った。大正2年10月30日、日本の近代歌謡・歌曲を代表する名曲は誕生した。

昭和に入つてこの曲が全国的になったのは、「世界のテナー」ともいわれる人気歌曲歌手になった奥田良三による。コンサートのたびに歌い、レコードにも吹き込んで全国に流行させた。

音楽教育、それも10代からが大仕事と確信した築田は東京府立一中(現在の日比谷高校)に奉職し、30数年間音楽を担当する。「ライオン」のアタ名で慕われ、「音楽教師」で映画にもなった。

その間、葛原しげるなどと童謡・唱歌運動をひろめ、「大正少年唱歌」などを出版し、『とんび』や『どんぐりコロコロ』を作曲した。

### 築田貞の作曲した主な作品

(下は作詞家名)

- 『城ヶ島の雨』 北原 白秋
- 『とんび』 葛原しげる
- 『どんぐりコロコロ』 青木 存義
- 『昼の夢』 高安 月郊
- 『隅田川』 小松 耕輔
- 『こなゆき』 野口 雨情
- 『鈴蘭』 加藤まさる
- 『県立秋田高校校歌』 土井 晩翠